様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：５３６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００４０６

研究課題名（和文）19世紀アメリカ文学における「イギリスの爵位権主張の語り」に関する研究

研究課題名（英文）A Study of "Claimant Narratives" in Nineteenth-Century American Literature

研究代表者
小宮山　真美子（KOMIYAMA, Mamiko）

長野工業高等専門学校・リベラルアーツ教育院・准教授

研究者番号：３０４３９５０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀のアメリカ文学における「イギリスの爵位継承権をめぐる物語」(Claimant Narratives)というテーマに焦点を当て、イギリスの「家系」が繋ぐ「相続」のシステムがアメリカにとってどのような欲望を掻き立てたかについて解明することを目的とし、分析および検証を行った。19世紀を通して戯曲、小説、エッセイ、児童文学とさまざまな媒体で使われたクレイマント・ナラティヴは、アメリカ国家に内在する葛藤を長期スパンで映し出していることが明らかになった。とりわけ南北戦争を挟んで本テーマの扱い方は変化している。これらの考察を国内外の学会で研究発表を行い、論文にまとめて成果として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
“Claimant Narrative”というテーマは、アンティベラム期のナサニエル・ホーソーン作品では、アメリカ人が抱く「根なし草」という物理的な不安を満たすナラティヴで使われた。その一方で南北戦争後に本テーマを扱ったマーク・トウェインの作品では、英米両国をまたぐ遺産相続のテーマは副次的に扱われ、内戦で受けた喪失および民主主義国家アメリカの不安定な展望を「過去の知識の所有」構想へと展化していった。21世紀の見地から鑑みて、過去における知性を再利用できるデジタル空間の継承へと変貌を遂げた本テーマは、文学における科学技術構想の起点を考察できる点において、学術的・社会的に重要な意義を持つと考える。

研究成果の概要（英文）：The study focused on the theme of "Claimant Narratives" in nineteenth-century American literature, with the aim of analyzing and examining how the system of "inheritance" connected by the English "family tree" stirred up hidden desires in America. The claimant narratives, which were used in a variety of media throughout the 19th century, reflect the conflicts inherent in the American nation over a long period of time. In particular, the treatment of this theme has changed over the course of the Civil War. As a result of these studies, I gave presentations both in Japan and at International conferences, and then reflected the feedback into academic papers.

研究分野：アメリカ文学・文化

キーワード：19世紀アメリカ文学　Claimant Narratives　領土拡張主義　土地と不動産　死者と生者の空間　ロマンスと倫理　死体ビジネス　人工知能

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

これまで申請者は、集団の記憶を繋げる手法として過去への弔いの意識に注目し、墓地を含めた土地所有が、死者の埋葬を中心とした慰撫と弔意儀礼へと繋がるテーマであるとの考察を行ってきた。この研究中に、19 世紀を通してアメリカの中に具体的に祖国イギリスへの繋がりを求める姿が見受けられることに気がついた。そのひとつが「爵位継承権をめぐる物語」(Claimant Narratives)というテーマであり、アメリカ文学の中に継続的に登場するこれらの作品群の分析は、19 世紀アメリカの民主主義を再考するのに有用であるという考えに至った。

本ジャンルの特徴に関しては、マイケル・ベルがホーソーンの『アメリカの相続者原稿』を取り上げ「若いアメリカ人青年により 200 年を経て英米関係の亀裂を和解に向けられた」(1971)という見解を示し、これが主流となった。またこれらの作品群に“Claimant Narratives”というジャンルを名付け、本格的に研究の対象としたのは、若手研究者のジャレド・ペンスの *Peculiar Insanity”：Hereditary Sympathy and the Nationalist Enterprise in Twain's The American Claimant*(2015)である。ペンスはホーソーンとトウェインの両作品を分析し、40 年を隔てた 2 作品は「アメリカの排他主義を強調するよりむしろ、アメリカがヨーロッパと同じ階級差を持つ社会へと発展している」ことを指摘した。本研究はこのような批評的流れを汲みながら、19 世紀という時代を通して“Claimant Narratives”の系譜を構築すべく作品の研究および考察を遂行することから始まった。

２．研究の目的

本研究では、19 世紀のアメリカ文学における「イギリスの爵位継承権をめぐる物語」(Claimant Narratives)というテーマに焦点を当て、獲得と占有のレトリックである空間の所有と、イギリスの「家系」が繋ぐ「相続」のシステムが、19 世紀アメリカにとってどのような欲望を掻き立てたかについて解明することを目的とした。ピューリタンの夢とは逆の方向で空間を横断するこれらの作品は、イギリスを舞台としつつもむしろ視線はアメリカ国家内部の心理的な揺れに向けられている。アメリカが奴隷制をめぐり国内が二分された南北戦争を挟み、アンティベラム期の物語としてナサニエル・ホーソーンの作品を中心に、ポストベラム期の物語としてマーク・トゥエインやフランシス・ホジソン・バーネットの作品から、本ジャンルの変遷を包括的に検証することを目指した。登場人物が抱く所有欲の対象を分析したうえで、物語全体を動かす「所有」の概念の多層性を明らかにすることにより、19 世紀のアメリカ国家に内在する具体的な懸念が立ち上がってくると予測した。

３．研究の方法

本研究では、内容別に以下の段階を経て研究を行った。

(1) ナサニエル・ホーソーンにおける爵位権継承の物語と埋葬に関する分析：

晩年に書かれ、死後出版となった『アメリカの相続者原稿』と『不老不死の霊薬原稿』の精読を行い、両作品に引き継がれたイギリスの荘園屋敷の相続について分析した。また土地の相続には埋葬の行為が深く関与することから、ホーソーンの初期の短編、代表的ロマンス作品も分析の対象に入れた。「過去」を象徴する祖先および死者という記号、および大地という空間がいかにして「所有」の問題に絡められているのかを検討したうえで、それらが特にアメリカの時空間とどう関連しているか分析を行った。

(2)　マーク・トウェインの『アメリカの爵位権主張者』(1892)における研究：

本作品は南北戦争後に書かれていることを踏まえ、南北戦争を経験した 19 世紀アメリカにおいて、祖国イギリスと母国アメリカに対する愛着と反発という心理の相克が、物語の形式の変化とどのように関連しているのかについて検証した。特に本作品では、次世代の知的財産相続に置き換えることもできる「死者の肉体と知性の再利用」に関する構想についても論究した。

(3) フランシス・ホジソン・バーネットの作品における研究：

南北戦争後から世紀転換期に書かれた『小公子』（1886）、『小公女』(1905)および『秘密の花園』（1911）について、物語形式および内容の検討を行った。登場人物の空間移動、相続のための序列、遺産相続申し立てのプロットの特性についての分析を行った。

４．研究成果

研究成果については、「研究方法」で示した内容に即して以下に記す。

(1) ナサニエル・ホーソーン作品の研究：

開拓期におけるアメリカでは、死者を倒れたその場所に埋葬することが、土地の所有およびフロンティアの拡大の下支えになっていたことを、「ロジャー・マルヴィンの埋葬」のワークショップにて発表した。タイトルは「Disobeyed “Vow”: ロジャーを埋葬しないこと」（第 39 回日本ナサニエル・ホーソーン協会全国大会, 2021 年 5 月）である。また遺稿となった『アメリカの相続者原稿』、および『不老不死の霊薬原稿』に収録された「セプティミアス・フェルトン」を中心に、英米間の爵位権と荘園屋敷の相続に関する研究を行った。アンティベラム期のナサニエル・ホーソーン作品において“Claimant Narratives”というテーマは、アメリカ人が抱く「根なし草」という物理的な不安を満たすナラティヴで使われているように見えた。だがその一方で、精読を通して晩年の作品群に描き込まれていたのは、英国人とアメリカ人の土地権利争いの底に沈められた先住民の存在であった。これらの研究をまとめて、共著本『ロマンスの倫理と語り―いまホーソーンを読む理由』(開文社出版 2023 年）の第二部に「「丁寧な埋葬」をめぐるロマンス――ホーソーンの作品における死者と生者の土地/物語空間」という論考で発表した。また 2023 年の夏には、作品の舞台となったイギリスのボルトンに残るスミシルズホール（旧マナーハウス）へ赴き、建築や資料の調査を行った。本調査の内容は今後論文にする予定である。

(2) マーク・トウェイン作品の研究：

南北戦争後の時空間で“Claimant Narratives”を扱ったマーク・トウェインの作品では、英米両国をまたぐ遺産相続そのもののテーマは副次的に扱われている。内戦で受けた喪失の傷および民主主義国家アメリカの不安定な展望を、トウェインは「過去の知識の所有」＝「死者の再利用」というオカルト的な構想へと移行させた。21 世紀の見地から鑑みて、アンティベラム期のトウェインの奇抜な構想は、物理的空間の所有という問題から、過去における知性や知識を再利用するデジタル空間の継承へと変貌を遂げたのではないか、という結論に至った。本研究は、「マーク・トウェインの『アメリカの爵位権主張者』(1892)における死/体のマテリアリティ―片腕のピートから死体ビジネスまで」（日本ナサニエル・ホーソーン協会 東京支部, 2023 年 3 月）に於いて日本語での口頭発表を経て、アメリカのオレゴン州で開催された国際学会にて、“Materiality of the Dead in Mark Twain's The American Claimant (1892)”（Pacific Ancient and Modern Language Association 第 120 回年次大会, 2023 年 10 月）へと発展させて口頭発表を行った。また本研究は、「マーク・トウェインの『アメリカの爵位権主張者』（1892）における死/体のマテリアリティ」（長野工業高等専門学校教育研究報告第 1 号, 2024 年）の論考にまとめた。

(3) フランシス・ホジソン・バーネット作品の研究：

南北戦争後から世紀転換期に書かれた『小公子』（1886）、『小公女』(1905)および『秘密の花園』（1911）について、物語形式および内容の検討を行った。登場人物の空間移動、相続のための序列、遺産相続申し立てのプロットの特性についての分析を行った。またこれらの作品の背景にある東インド会社の役割についても調査し、財産や資産が発生する鉱山についても検討した。現在は本研究をまとめ、投稿準備を整えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 小宮山真美子	４．巻 1
２．論文標題 マーク・トウェインの『アメリカの爵位権主張者』（1892）における死/体のマテリアリティ	５．発行年 2023年
３．雑誌名 長野工業高等専門学校教育研究報告第1号	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Mamiko, KOMIYAMA
２．発表標題 " Materiality of the Dead in Mark Twain's The American Claimant (1892)"
３．学会等名 Pacific Ancient and Modern Language Association 第120回年次大会（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小宮山真美子
２．発表標題 「マーク・トウェインの『アメリカの爵位権主張者』(1892)における死/体のマテリアリティ―片腕のピートから死体ビジネスまで」
３．学会等名 日本ナサニエル・ホーソーン協会 東京支部
４．発表年 2023年

１．発表者名 小宮山真美子
２．発表標題 「僕の親戚モーリノー少佐」に潜む被傷性/可傷性と反転する暴力の可能性」
３．学会等名 日本アメリカ文学会 九州支部会
４．発表年 2022年

１．発表者名 小宮山真美子
２．発表標題 「Rethinking Nathaniel Hawthorne;Nature;Pastoral Experiments;Environmentalityを読む」
３．学会等名 日本ナサニエル・ホーソーン協会 東京支部12月例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 小宮山真美子
２．発表標題 「Disobeyed “ Vow ”: ロジャーを埋葬しないこと」
３．学会等名 第39回日本ナサニエル・ホーソーン協会全国大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 小宮山真美子
２．発表標題 Pratt, Lloyd. Archives of American Time: Literature and Modernity in the Nineteenth Centuryを読む
３．学会等名 日本ナサニエル・ホーソーン協会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計1件

１．著者名 西谷拓哉／髙尾直知／城戸光世　編著　（分担著者：小宮山真美子）	４．発行年 2023年
２．出版社 開文社出版	５．総ページ数 480
３．書名 ロマンスの倫理と語り―いまホーソーンを読む理由	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関